

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

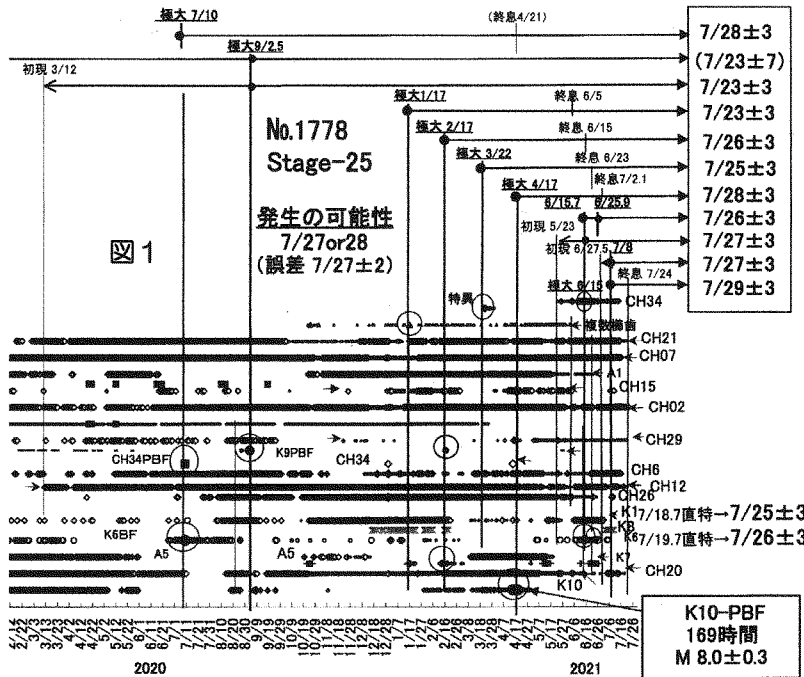
続報 No.301

2021.07/23 (金曜) 17:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

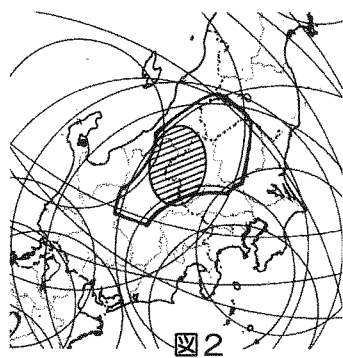
No.1778前兆 続報

前兆変動終息の可能性 7/29 ± 1 (最大誤差: 7/28 ± 2) 地震発生の可能性



No.1778長期継続前兆群の続報です。日々の配信観測情報では報告済ですが、HPでは報告してありませんでした前兆変動ピークが、7/8.0に観測されました。これに対する前兆変動終息を確認するため、高知観測点出張もあり、続報が本日となりましたこと、深くお詫び申し上げます。

7/18.7中心に高知観測点K1に糸状特異が観測され、7/19.7にK6にBF変動が観測されましたが、すぐ静穏化。K6は別地震前兆変動の可能性も考えましたが、30分だけのBFで、K1と共に6/15極大に対する直前特異と考えますと7/26 ± 3発生を示します。従って別地震前兆BFではなく、直前特異の可能性認識です。継続出現していた多くの前兆変動がCH21を除き7/22午前を中心に静穏化しました。CH21は7/22夕刻に終息。多くの前兆変動の終息から丸一日以上経過時点で前兆変動再出現はありませんでした。CH21の最終前兆終息からも19時間経過しましたが、再出現はありませんでした。この時点で7/8.0極大に対する終息を7/23.0で計算し、7/28発生の可能性を計算しました。しかし7/23頃、一度静穏化していた多数の観測装置に弱い前兆変動を観測。その後は静穏基線持続。CH02と21は午後にも弱い変動が観測されましたが、現在は静穏基線です。HPでは7/20以降に続報発表の予定と記したため、これ以上延ばせませんので、本日07/23夕刻時点での状況から判断し、続報させていただきます。状況から判断しますと、7/8.0極大に対する前兆変動終息は本日夕刻～夜である可能性が示唆されます。その場合は対応地震発生は07月29日 ± 1が計算されることとなります。現在、2008年07月から実に13年継続しましたNo.1778前兆群の前兆変動は全て消え、正常静穏基線を記録中です。従いまして、現在までの認識と推定が正しい場合は、07月29日 ± 1 (最大誤差: 07月28日 ± 2) に対応地震発生の可能性が示唆されることとなります。この続報発表以降の観測で前兆変動が出現した場合は、再考し続報させていただきますが、現状地震発生の可能性が否定できませんので、念のため最大限の注意をお願い申し上げます。前兆変動変化認識が間違っていた場合は、この推定は無効となります。8/01までに対応地震が発生しない場合は前兆変動変化認識の間違いとなりますので、その後の観測データと合わせ再考させていただきます。



- ◆ 推定領域: 図2太線内領域・斜線域
斜線域=浅間山・白根山等火山近傍
- ◆ 推定規模: M8.0 ± 0.3
M7クラス複合の可能性も若干有
地震で近傍火山活動に変化の可能性も若干有
- ◆ 推定時期: 07月29日 ± 1 発生の可能性
最大誤差: 07月28日 ± 2
7/24以降前兆継続の場合は続報で修正
8/01迄に発生無い場合は再考予定
- ◇ 推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震
- ◇ 推定発生時刻: 午前09時30分 ± 1時間30分
または午後05時 ± 3時間

当該地震前兆変動は2008年07月から実に13年も継続出現した観測歴上最長継続前兆変動です。影響局が多数あることから、初期は東北の可能性、途中近畿圏の可能性等も考えられましたが、その後前兆変動検知領域円算出の係数修正等から、現在の推定領域が考えやすいこととなりました。仮に前兆変動影響局に誤認があった場合は、領域は大きく変わることとなりますが、図2領域が考え易い見解です。2008年の岩手宮城内陸地震の前兆が3年3ヶ月で最長でした。今回の13年継続は初めて体験する前兆変動で、左の推定内容が正しいかわかりません。間違っていた場合には平に陳謝致します。過去例と異なる前兆変動出現状況ですので、解析が非常に難しいです。現在の推定を大きく変える必要のあるデータが観測された場合は続報予定です。(串田)